

## 第2章 地域の概況

### 第1節 地理的概況

#### 1. 地 勢

本市は、旧田沢湖町・旧角館町・旧西木村の3町村の合併により、平成17年9月20日に誕生した市である。

位置としては秋田県の東部中央にあり、ほぼ中央には水深日本一を誇る田沢湖、東には秋田駒ヶ岳、北には八幡平があり、南には肥沃な穀倉地帯として仙北平野を形成している。奥羽山脈を構成する森林が8割を占め、仙北地域の水源となっている。

総面積は1,093.64km<sup>2</sup>で、秋田県全体の9.4%を占める。



図2-1-1 地勢の概況

2. 気 象

冬期間は全地域で平均気温が氷点下を下回る厳しい寒さであり積雪も多いが、その中でも地域の南北間では気温・降水量ともに格差が見られる。

平成 16 年度の気温は、角館で平均 11.4 、田沢湖で 10.2 と、約 1 の差、降水量も 2,400mm 台から 2,700mm 台と、300mm 程度の差となっている。

表 2-1-1 気象の概況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 平均	単 位	
田沢湖	降水量	151	177	116	175	292	201	270	361	323	134	170	185	2,555	mm
	平均気温	-2.5	-2.5	1	7.1	14.6	18.1	22.7	22.1	19.2	11.8	8	1.4	10.2	
角 館	降水量	191	191	123	162	247	175	286	297	241	110	196	237	2,456	mm
	平均気温	-1.3	-0.2	2.2	8.6	15.8	19.6	23.9	23.5	20.2	12.6	9	2.4	11.4	
桧木内	降水量	264	144	236	184	143	129	338	330	238	191	267	248	2,712	mm
鎧 畑	降水量	263	150	226	175	137	148	402	320	250	196	251	246	2,764	mm

(資料：気象庁HP)

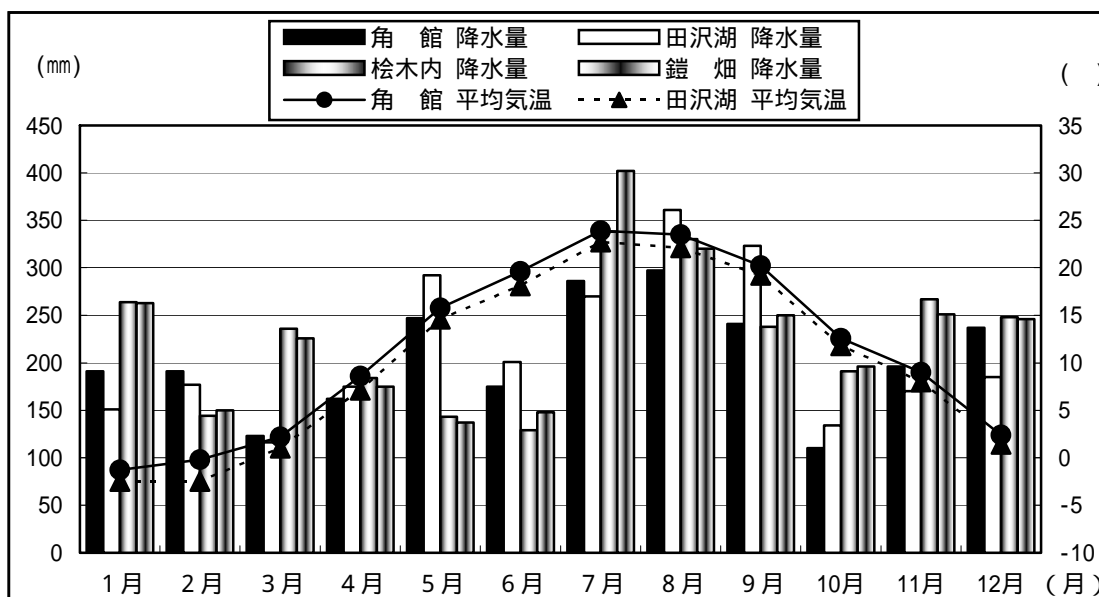


図 2-1-2 気象の概況

第2節 社会的概況

1. 人口

平成16年度における市域の人口は、住民基本台帳ベースで32,742人となっており、内訳は田沢湖町12,476人、角館町14,407人、西木村5,859人である。

推移としては、各旧町村で減少傾向にあることから、市域計でも減少傾向を示している。

表2-2-1 人口の推移

(単位：人)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	伸び率 (対H10)
田沢湖町	2,662,588	2,805,216	2,818,331	2,749,812	2,670,661	2,900,716	2,878,368	102.1%
角館町	1,921,000	1,986,500	2,407,499	2,402,066	2,271,733	2,585,000	2,436,623	101.2%
西木村	843,412	862,563	841,043	1,065,193	1,058,112	1,100,800	993,219	118.1%
市域計	5,427,000	5,654,279	6,066,873	6,217,071	6,000,506	6,586,516	6,308,210	104.0%

(資料：仙北市の観光の現状と課題)

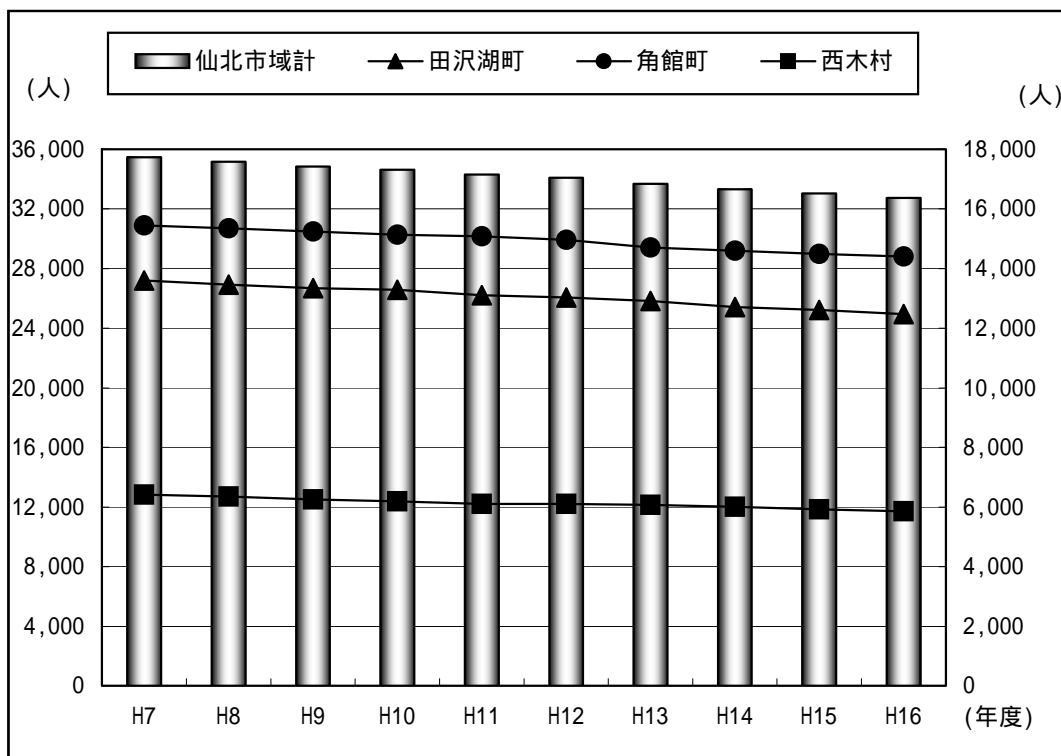


図2-2-1 人口の推移

## 2. 就業構造

平成12年度における本市の就業構造は、第1次産業2,410人(14.0%)、第2次産業5,778人(33.6%)、第3次産業9,020人(52.4%)となっている。

推移としては、第1,2次産業が400人程度減少し、第3次産業がほぼ横ばいとなっている。割合で見れば、就業者数が減少しているため、第1,2次産業が減少、第3次産業が増加している形となる。

表 2-2-2 就業構造の推移

		第1次産業		第2次産業		第3次産業		合計
		就業者数 (人)	割合 (%)	就業者数 (人)	割合 (%)	就業者数 (人)	割合 (%)	
H12	田沢湖町	966	14.1%	2,248	32.9%	3,627	53.0%	6,841
	角館町	853	11.4%	2,363	31.7%	4,235	56.8%	7,451
	西木村	591	20.3%	1,167	40.0%	1,158	39.7%	2,916
	市域計	1,444	13.9%	3,530	34.1%	5,393	52.0%	10,367
H7	市域計	2,837	15.8%	6,119	34.0%	9,020	50.2%	17,982

(資料：国勢調査)

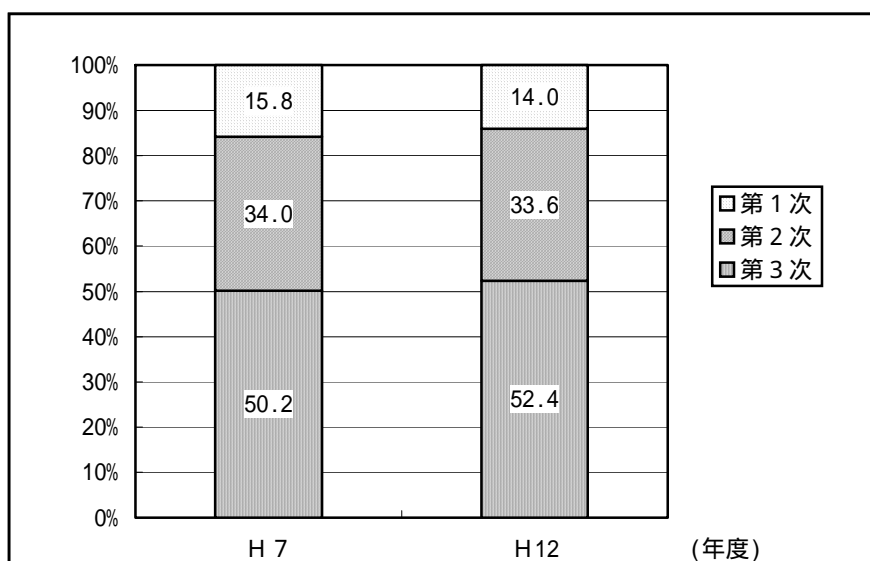


図 2-2-2 就業構造の推移

3. 農業

平成12年度における本市の総農家数は、2,455人（専業農家数135人、第一種兼業農家数504人、第二種兼業農家数1,816人）農家人口は、3,513人となっている。

推移としては、第一種兼業農家が増加から減少に転じ、その他の項目も減少傾向を示している。

表 2-2-3 農業の推移

	総農家数	農家数（戸）			自給的農家	農家人口（人）	
		専業農家	第一種兼業	第二種兼業			
H 2	3,480	187	651	2,642	0	4,642	
H 7	3,192	148	759	2,285	0	3,905	
計	2,455	135	504	1,816	0	3,513	
H 12	田沢湖町	949	49	212	688	0	1,308
	角館町	866	50	175	641	0	1,283
	西木村	640	36	117	487	0	922

（資料：農林業センサス）

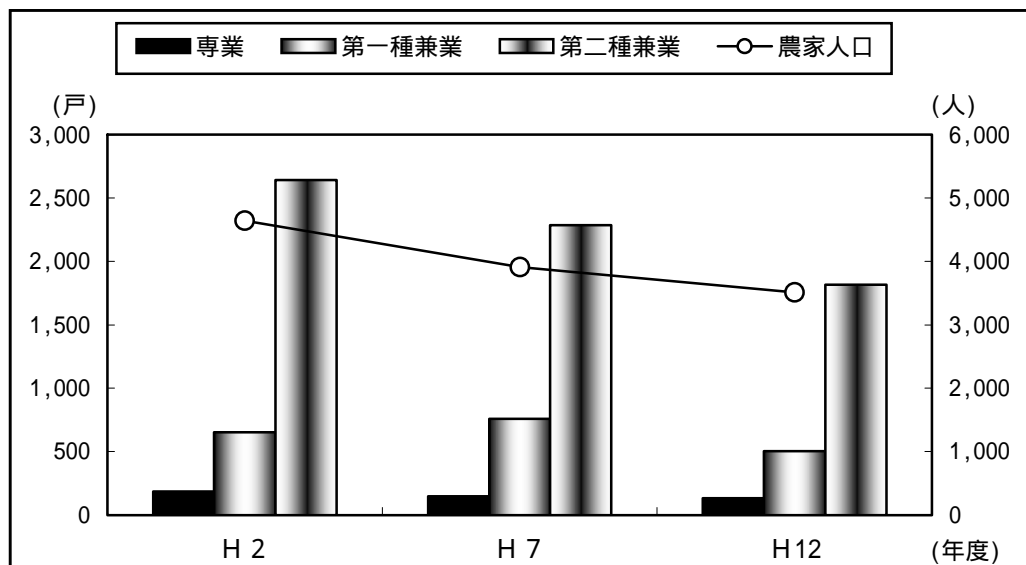


図 2-2-3 農業の推移

## 4. 商業

平成14年度における本市の商業は、商店数573件、従業者数2,485人、商品販売額39,339百万円となっている。

推移としては、それぞれ微減傾向にあり、販売額は平成9年以降減少に転じている。

表 2-2-4 商業の推移

		商店数 (店)	従業者数 (人)	商品販売額 (百万円)
H 3	市域計	759	2,952	49,656
H 6	市域計	696	2,690	51,704
H 9	市域計	666	2,686	53,908
H11	市域計	638	2,602	47,371
H14	市域計	573	2,485	39,339
	田沢湖町	172	788	11,587
	角館町	329	1,478	25,483
	西木村	72	219	2,269

(資料：商業統計調査)

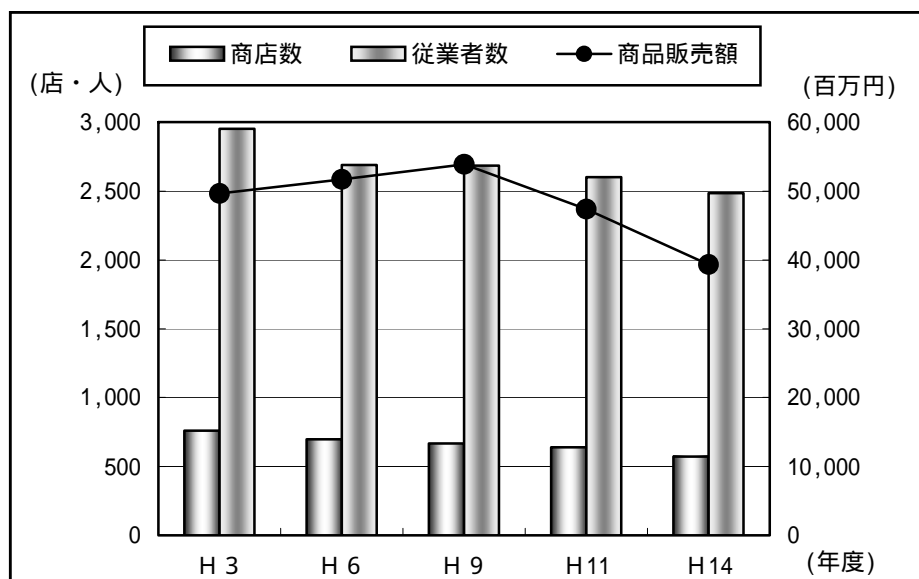


図 2-2-4 商業の推移

5. 工業

平成15年度における本市の工業は、事業所数85件、従業者数1,991人、出荷額等1,761,500円となっている。

推移としては、事業所数がほぼ横ばいとなっていて、従業者数、出荷額等は若干増加の傾向がある。

表 2-2-5 工業の推移

		事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	出荷額等 (百万円)
H11	市域計	108	2,470	20,138
H12	市域計	106	2,485	19,966
H13	市域計	92	2,025	18,450
H14	市域計	85	1,973	16,238
H15	市域計	85	1,991	17,615
	田沢湖町	30	896	7,646
	角館町	43	941	8,743
	西木村	12	154	1,226

(資料：工業統計調査)

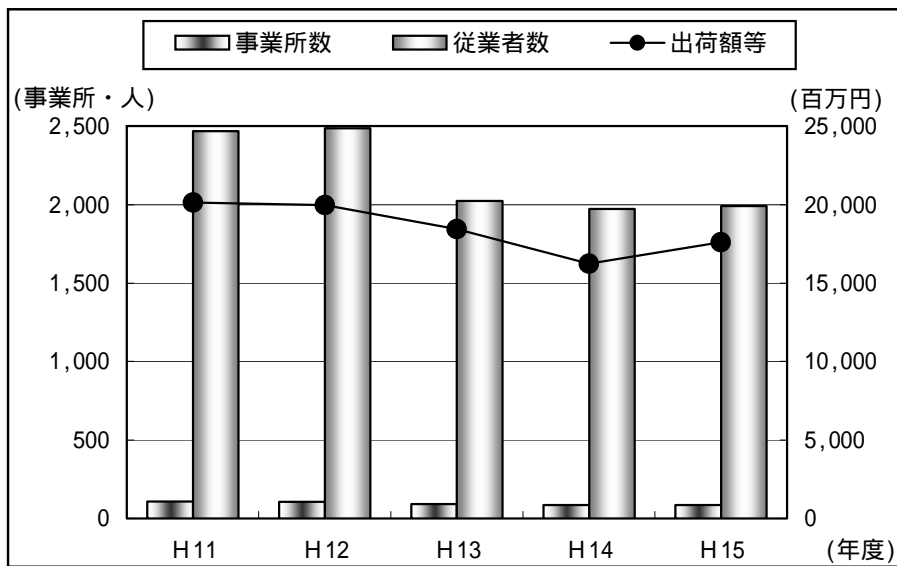


図 2-2-5 工業の推移

6. 観光

仙北市は、角館武家屋敷、田沢湖、田沢湖高原、乳頭温泉、八幡平等の自然的文化的観光資源を多く有しており、年間 600 万人以上の観光客を受け入れる東北有数の観光都市である。

平成 16 年度における本市の観光客数は、田沢湖町 2,878,368 人、角館町 2,436,623 人、西木村 993,219 人となっている。

推移としては、平成 12 年度と比較すると田沢湖が 102.1%、角館町が 101.2%、西木村が 118.1%とそれぞれ増加している形となる。

表 2-2-6 観光客数の推移

(単位：人)

	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	伸び率 (対 H12)
田沢湖町	2,818,331	2,749,812	2,670,661	2,900,716	2,878,368	102.1%
角館町	2,407,499	2,402,066	2,271,733	2,585,000	2,436,623	101.2%
西木村	841,043	1,065,193	1,058,112	1,100,800	993,219	118.1%
市域計	6,066,873	6,217,071	6,000,506	6,586,516	6,308,210	104.0%

(資料：仙北市の観光の現状と課題)

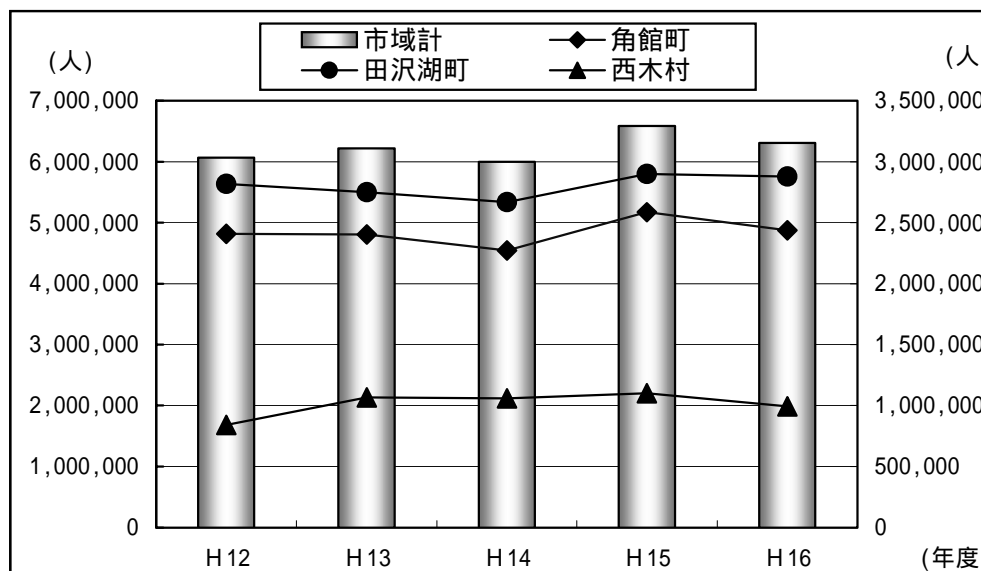


図 2-2-6 観光客数の推移

7. 交通

仙北市の鉄道網は、南北に秋田内陸縦貫鉄道が縦断、東西にJR田沢湖線（秋田新幹線）が横断している。

道路網は鉄道に沿った形の国道105号、46号、また田沢湖の東を南北に走る国道341号があり、鉄道・道路ともに田沢湖を中心とした良好な交通条件にある。



図 2-2-7 交通の概要

8. 上位計画

合併前の各旧町村では総合計画が策定されており、それに伴い各種施策が展開されていたが、新市施行後の総合計画はまだ策定されていない。

一方、合併前の田沢湖・角館・西木合併協議会では、新市の基本的方向を記した「新市建設計画」が策定されている。

その中で新市の将来像は「観光産業を活かした北東北の拠点都市」とされ、詳細施策・事業の中にはごみの減量化・再資源化の推進や循環型ごみ処理体制の確立等が謳われている。

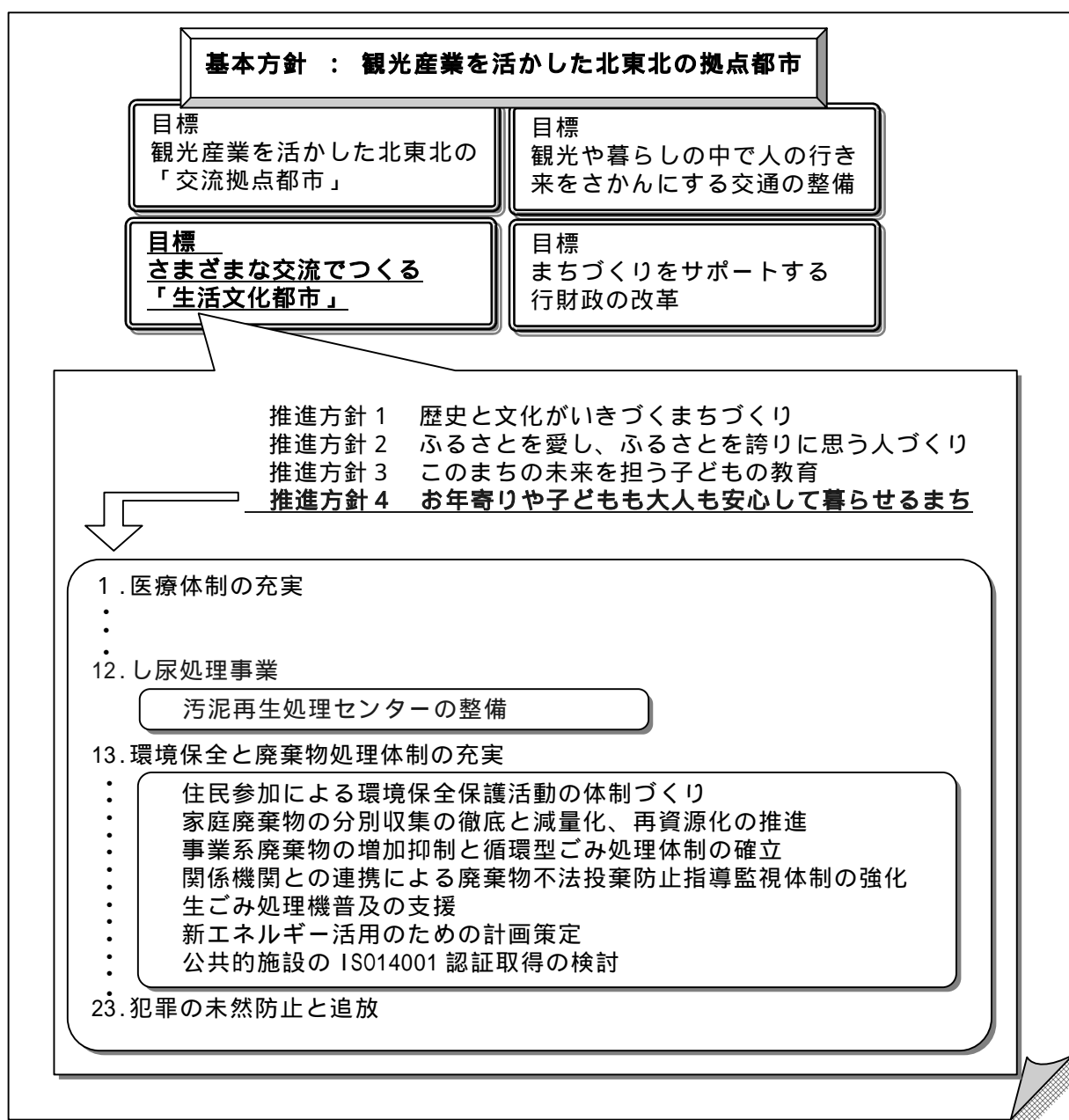


図 2-2-8 新市建設計画の概要